

ITなどの導入が進む

医療・介護・福祉機器業界が急成長

医療・介護機器の分野では、医療・介護機器製造の新技術や原材料・機械・部品・包装などを展示・公開する「Medtec Japan 2018」に注目してみた。主催者であるUBMジャパン(株)の担当者によると、この「Medtec Japan」は「医療機器製造企業の技術者や研究者が集まり、相互に情報を交換する」として、新製品開発や製造技術の向上などに役立てていただくことを目指している。より専門的な設計や製造技術の検証、有力

なサプライヤーが保有する最先端のノウハウを活用する機会を提供し、医療機器業界の活性化および日本の国際競争力の向上に貢献していきたい」とのこと。では、昨今の業界動向はどうかというところ、「技術力、製品力はあるが、それをどのように活用・販売していくのかがわからない中小企業が多く、それらの企業と製販企業との接点をいかに持たせるかが業界の課題であり、産業の成長を促進させる大事なポイント」だそうだ。ま

たこのところ、この分野はエレクトロニクス関連、ソフトウェア関連企業からのアプローチが目立つ。実際、「AIやセンサー、ビッグデータの活用など、他業界でも注目を浴びている技術・分野が、医療機器業界でも注目を浴びつつある」そうだ。一方で「医療機器としての認可が不要な手術シミュレーションができる練習用の臓器・人体の模型・ソフトウェアなど、認可の有無に左右されない医療機器の開発の注目度も高まってきて

いる」という。ちなみに、18年度は全国各地から23の地方自治体がこの展示会に出展し、地域の元気企業のPRを支援していた。たとえば、広島県からは(株)システムフレンドが、非接触センサーで計測したデータをもとに、関節可動域を測定する「鑑(AKIRA)」を展示。ビデオ撮影のような容易な操作で、患者の負担を増やすことなく、全体の姿勢や動作に関する情報を3次元データで計測・記録することができるというスグレモノだ。ポータブルなうえに簡単にリハビリテーションの効果を可視化できると注目を集めている。

そのほか、長野県からは(株)JINRIKIが車椅子の前輪を浮かせて引くことで、人力車のように扱える補助装置「Jinriki」を出展。坂道、段差、積雪、砂利道・ぬかるみといった悪路でもスムーズな移動を可能にするというもので、災害時における要援護者の避難・移送に威力を発揮するほ

注目の躍進企業

企業名	地域	製品・サービス名	製品・サービスの特徴
株式会社 スク	岩手県滝沢村	ハイカーボネイト	高濃度の炭酸泉の生成装置
株式会社 メリテック	東京都中央区	Mesimo	メディカル・ヘルスケア分野に最適化されたIoTソリューション
株式会社 セツタ	東京都千代田区	AI自動翻訳システムT-400	医療・化学・特許などの専門分野の自動翻訳システム
株式会社 コスモテック	東京都立川市	ウェアラブルメモ	シールタイプのメモになる、腕、肌へ直接貼れるバンド
株式会社 SPI エンジニアリング	長野県長野市	工業用内視鏡	外径1.8mm、世界最高レベルの超極細工業用内視鏡



上:システムフレンドのブース
下2点:人力車のように扱える補助装置「Jinriki」

か、障害者や要介護者の観光・野外活動を活発にかつ省人員で実施することができるなど、用途に幅があるのが特徴だ。また、市販されているほとんどの車椅子に装着でき、省スペースで備蓄にも適しているため、公共施設や避難所、介護施設、観光地、交通機関などでの導入・整備を進めているという。

Medtec Japan 2018

開催日:2018年4月18~20日
開催地:東京ビッグサイト(東京都江東区)
来場者数:3万1062人(2017年は3万2561人)、
出展社数:560社・団体(2017年は544社・団体)
主催者:UBMジャパン(株)



展示会の様子